

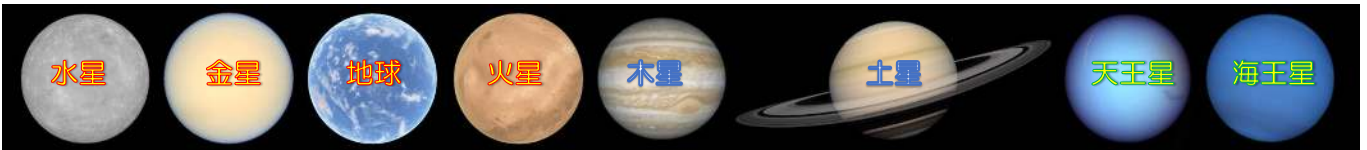


第624号

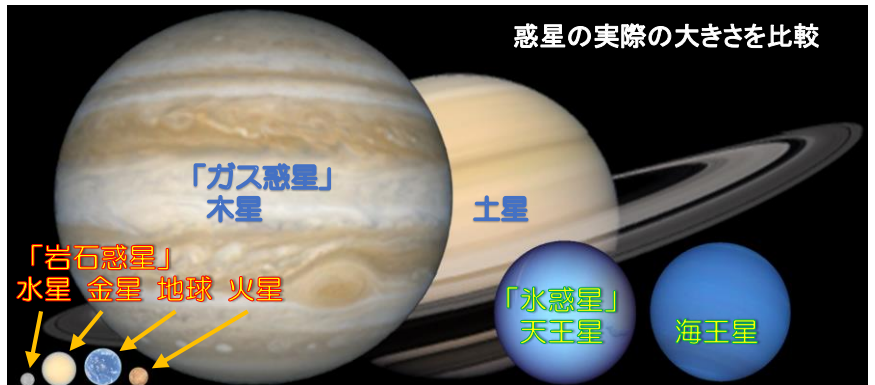
# ジオスペース館だより

## ★ 水・金・地・火・木・土・天・海! 【太陽系の惑星 その1】 ★

太陽のように自分で輝く星を「恒星」と呼び、その周りを回る軌道を持ち、その軌道周辺に衛星以外の他の天体がなく、ほぼ球形をとるほど十分な質量を持つ星を「惑星」といいます。今から46億年ほど前、太陽が生まれ、その周りを回っているガスやちりが、長い時間をかけて衝突を繰り返して大きくなり、太陽に近い方から水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星の8つの惑星となって、太陽の周りを回る惑星などの様々な天体からなる現在の「太陽系」となりました。かつて惑星とされていた冥王星は、軌道周辺に他の天体が見つかり、2006年に準惑星へと分類変更されました。



さて、太陽系の8つの惑星は、どんな物質できているかによって、大きく3つの性質に分けられます。水星、金星、地球、火星の4つは、主に岩石からできており、「岩石惑星」と呼ばれ、その外側の木星と土星は、水素やヘリウムというガスが主成分で、「ガス惑星」といい、天王星と海王星は、主に水やメタンやアンモニアの氷からできているため、「氷惑星」と呼ばれます。「岩石惑星」は比較的小さくて、地球の大きさを基準にすると、金星は地球より少し小さく、火星は地球の約半分、水星にいたっては地球の約4割の大きさしかありません。しかし、「ガス惑星」は巨大で、木星は地球の約11倍、土星は約9倍あり、「氷惑星」の天王星と海王星も「ガス惑星」ほどではありませんが、地球の約4倍ほどと、かなりの大きさです。このように太陽系の惑星は内側から「岩石惑星」「ガス惑星」「氷惑星」と並んでいますが、始めは「岩石惑星」ができ、次に「ガス惑星」、そして「氷惑星」と、内側から順番にできていったと考えられています。



惑星の画像はメディアグループ ΣSE を使用して作成

## ★ 「4月こと座流星群」が極大、金星が最大光度をむかえます ★



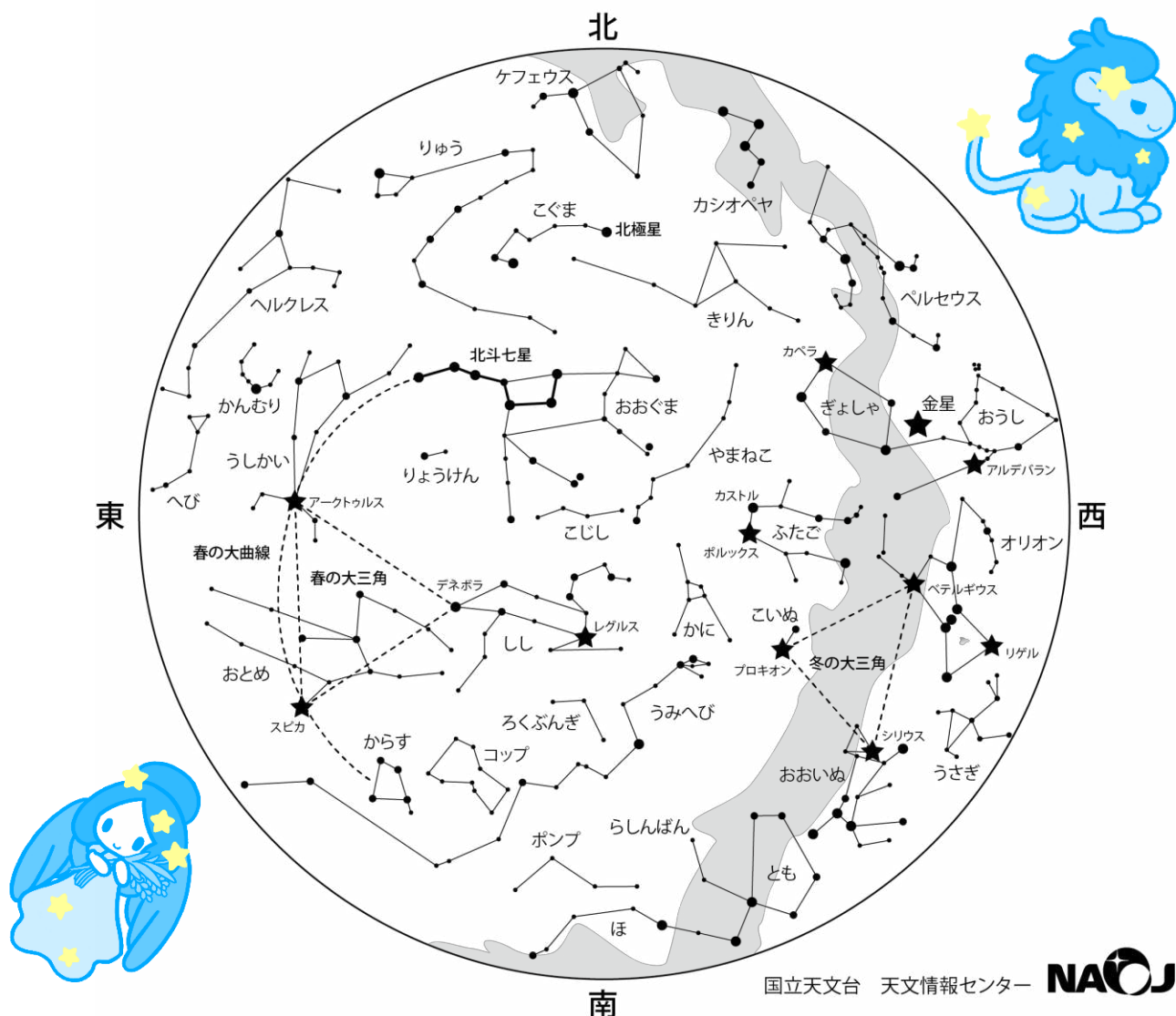
星図はステラナビゲーター11 を使用して作成

4月22日深夜から23日の明け方にかけて、4月こと座流星群が見ごろです。23日は新月で、月明かりの影響がない好条件ですが、流星の数がそれほど多くはないので、見晴らしがよい所でも、見られるのは1時間に5~10個程度。とはいえ、明るい流星の割合が高く、見られれば印象に残るでしょう。気楽に楽しんでみてはいかがでしょうか。また、28日夕方には、金星が最大光度となります。マイナス4.5等以上という、1等星の100倍以上の明るさで輝いているので、この機会にぜひ観察してみましょう。

### ☆☆ 4月のプラネタリウムのご案内 ☆☆

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ジオスペース館は5月6日まで臨時休館中です。

# 4月下旬午後8時頃の星空



## ★ 4月下旬の主な天文現象

15日(水) ① <small>かげん</small> 下弦、月が木星 <small>せつきん</small> に接近	22日(水) 4月ごと座流星群 <small>きょくだい</small> が極大
16日(木) 月が火星に接近	23日(木) ● <small>しんげつ</small> 新月
19日(日) <small>こくう</small> 穀雨	26日(日) 土星が西矩、天王星 <small>ごう</small> が合
20日(月) 木星 <small>せいこく</small> が西矩	28日(火) 金星 <small>さいだいこうど</small> が最大光度 (-4.5等)

## ★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 4/15~30) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 4月25日(土) [見やすさ ◎]	4:34 南西	~	4:41 北東
◇ 4月26日(日) [見やすさ ◎]	3:49 南南西	~	3:54 東北東
◇ 4月28日(火) [見やすさ ◎]	3:51 西	~	3:56 北東
◇ 4月29日(水) [見やすさ ○]	3:06 北東	~	3:09 北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。  
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。